

令和 7 年度
東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会
評価部会

令和 8 年 1 月 14 日（水）
東京都庭園美術館 新館 2 階会議室

午後 1 時58分開会

宮田文化施設担当課長：それでは、皆様おそろいですので、ちょっと時間より早いですけれども、始めさせていただければと思います。

本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから、令和 7 年度第 2 回東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会評価部会を開催いたします。

私、東京都生活文化局文化振興部文化施設担当課長の宮田と申します。本日の司会を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日御出席の委員の皆様を御紹介させていただきます。私から向かって左のお席から御紹介させていただきます。

長佐古委員でございます。

天野委員でございます。

加藤委員でございます。

中島委員でございます。

失礼いたしました。橋本委員につきましては、事前に御欠席との連絡を頂戴しております。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都庭園美術館副館長の牟田でございます。

東京都庭園美術館事業担当係長の早川でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

では、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず、会議次第がございます。次に資料 1、東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会（評価部会）委員名簿がございます。資料 2、東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱。資料 3、東京都庭園美術館美術資料収集方針。資料 4、令和 7 年度東京都庭園美術館における収蔵品購入に関する方針について。資料 5、令和 7 年度東京都庭園美術館収集候補作品一覧表。資料 6、作家・作品説明書。評価部会の評価表が一番下についてございます。御確認いただきまして不足等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

なお、本日配付いたしました資料につきましては、委員会終了後に回収させていただきますので御了承ください。

本委員会には収集部会と評価部会がございます。収集部会は、作品が庭園美術館の収蔵品としてふさわしいか否かについて意見交換していただく部会でございます。また、こちらの評価部会は、庭園美術館の収蔵品としての作品価格を個別の委員の皆様にご評価いただくものでございます。

当評価部会で評価をお願いする作品につきましては、本日午前に開催した収集部会におきまして、収蔵するのが適切であるという御意見をいただいているところでございます。

また、評価対象資料の価格評価に関する議事は、東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱第10の規定により非公開となります。

当部会の議事録につきましては、同要綱第10の第2項の定めに基づき、資料収集決定の後、公開を予定しております。公開に当たりましては、委員の皆様にご追って内容の確認をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

また、委員の皆様のお名前と現職名は、東京都のホームページ上で公開させていただいております。

それでは、議事に入ります。

事務局から収集作品の説明をお願いいたします。

牟田副館長：では、事務局のほうより収集作品について御説明いたします。

本日評価をお願いする作品は、購入が5件、寄贈が1件、寄託が1件となっております。詳細につきましては、事業担当係長の早川及び担当学芸員の斉藤より御説明をさせていただきます。

早川事業担当係長：お手元の資料、私のほうは資料3、資料4の庭園美術館におけます収蔵品の方針についての紙を御説明をさせていただきたいと思います。

資料3になりますけれども、東京都庭園美術館美術資料収集方針ということで収集の基本的考え方、それから収集対象、収集分野、収集方法についてこちらで定めております。それに基づきまして資料4になりますけれども、令和7年度東京都庭園美術館における収蔵品購入に関する方針についてということで、具体的な方針をこちらで示しております。例年この内容でやっておりまして、今年も昨年と同様の方針で具体的方針として定めさせていただきました。

東京都庭園美術館美術資料収集方針にのっとりまして、東京都庭園美術館における美術資料のコレクションをより充実させる観点で収集を図ってまいりたいと存じます。首都東京の庭園美術館にふさわしいコレクションを形成するため、芸術的・資料的価値が高い作品を対象といたします。条例に規定される旧朝香宮邸の公開に際して、都民に対してより充実した展示環境を提供するための美術資料等に焦点を当てて計画的に収集を行います。国内唯一のアール・デコ様式の専門館とし、同時代の装飾様式を中心に据え、美術資料の充実をもって都民の知的関心に応えるとともに、この分野の調査・研究に資することを目的といたします。

こちらの方針に基づきまして今年度第2回にかけさせていただくのは、購入5件、寄贈1件、寄託1件になりますが、今回付議する資料につきましては担当学芸員の斉藤のほうから御説明をさせていただきます。斉藤さん、よろしくお願いいたします。

斉藤学芸員：お手元の資料、まず5番の作品一覧表を御覧いただければと思います。申し上げましたとおり今回購入の案件1から5まで、ルネ・ラリックによる作品群と、あとは寄贈1件、松井写真館による「朝香宮邸竣工写真」、そして寄託案件1件の郷原古統の「南薫綽約」という作品になります。

詳しい作品の説明に移ります。A3横長の資料6を御覧ください。

まず購入の1点目、立像「噴水の女神 カリプソ」という作品になります。こちらはルネ・ラリックの作家説明になりますが、ジュエリー・デザイナーでガラス工芸家としてのルネ・ラリックによる作品です。ルネ・ラリックは、素材による市場価値よりも作品の造形性を重視して、半貴石やガラス、獣角材などを積極的に用いて植物、昆虫、裸婦などをモチーフとした象徴主義的

なアール・ヌーヴォー・ジュエリーのスタイルを確立し、多くの追随者を生んだ作家と言えます。1908年には香水商コティからの香水瓶のデザインを依頼され、これを契機にガラス工芸に着手していきます。芸術性も高く、なおかつ量産にも応えることのできる型押技法ですとか型吹き技法といったもので、カーマスコットという小さい作品から大きなモニュメンタルな建築用の大作まで手がけることになりました。また、1925年のアール・デコ博覧会では、会場の中央にガラスの噴水塔「フランスの水源」を制作します。また、その傍らには自身のパビリオンを出展しておりました。朝香宮邸においては正面玄関のガラスレリーフ扉をデザインをしております。また、大客室と大食堂のシャンデリアにそれぞれ「ブカレスト」、「パイナップルとざくろ」という作品を提供しました。

作品の説明に移ります。右側の画像のとおりになりますが、作品になります。こちらは1925年のアール・デコ博覧会の中央広場に設置された噴水塔のための女神像となります。噴水塔は高さ15メートルの8角形の形をしておりまして、16段に積み上げられたこの右のようなガラスの女性像によって構成されました。各段には、それぞれ衣装やポーズが変化に富んだ、16種類の水や泉をつかさどる女神ですとか精霊をモチーフとした全部で128体が設置されていました。立像の細部は繊細な装飾が施されていますが、全体のフォルムを見ると直線的で、それぞれの立像から水が放物線を描いて糸のように落ちる仕掛けとなっています。また、塔の内側には電気照明が仕込まれていたもので、夜になるとその流れ落ちる水と一緒に噴水塔自体も光り輝いたとされています。こちらの作品のモチーフとなっているのはカリプソで、「オデュッセイア」に登場する海のニンフとされています。

本作を収集候補とする理由につきましては右にあります。まずルネ・ラリックは、朝香宮邸の建設に際して正面玄関のレリーフ扉ですとかシャンデリアの制作も担当しておりまして、当館にとって大変重要な作家であると言えます。本作は1925年に開催されたアール・デコ博覧会において最も注目されたモニュメントの一つとされ、世界にラリックの名をはせたマスターピースと言えます。ガラスという素材そのものが水と光の競演によって一体となる本作は、ガラス工芸においてラリックの優れた技術的な熟練を示すものと言えます。また、アール・デコに特徴的な流線形で繊細な装飾は特筆すべき点と考えています。古代神話の女性像というものは、ラリックの創作活動においても大変重要な主題と言えます。朝香宮邸の正面玄関レリーフなどもその一例とされますので、本作との親和性も高いと考えています。そういった面で今後、建物公開展のさらなる充実を図るといった意味で本作品の展示活用が期待できるとし、今回、収集候補としております。

ラリックの取引事例としましては右のとおりとなります。

また、他館の収蔵状況につきましては、日本国内の美術館ですとか海外の美術館でも収蔵がされております。

こちら購入1なんですけれども、購入1、続く2、3、4は同じ立像のものになりまして、モチーフがそれぞれ異なるものとなっております。

1点特筆すべきものとして購入の4番を挙げさせていただきたいと思います。こちらはテル

フューズというギリシャ神話における泉のニンフをモチーフとした作品なのですが、これから実際に実見いただく際にも御確認いただければと思うんですけれども、こちらの作品だけは、ほかの3点と比べて頭頂部に丸い溝のようなものがあることですか背中形状からして、恐らく1925年のアール・デコ博覧会の噴水塔で実際に使用されたものではないかと推測されます。

続きまして、購入の5、常夜灯「二羽の孔雀」に移ります。こちらの作品は、扇形の装飾版が施された照明器具で、元は1910年代に香水瓶のためにデザインされ始めた造形と言えますが、後にこういった照明器具としても展開されるようになります。胴体部には縦方向にリブが入っておりまして、台座は世界で初めて工業化された合成樹脂のベークライトが使用されております。この扇形の平らな装飾版に沿って照明が伝わっていくことで、光を効果的に利用した作品と言えます。ラリックがこれを制作した当時は、パリ市内に電気の供給が開始されたばかりだったので、いち早く電気という最先端のテクノロジーを作品に取り入れたとされております。モチーフのクジャクは、ラリックがジュエリー・デザイナー時代から一貫して好んで用いていたもので、本作では向かい合う2羽のクジャクが長い尾羽を下げている様子が分かります。

こちらの作品を収集候補とする理由です。本作は、光を伝達しながら同時に反射するというガラス固有の特徴を追求し、ガラスという素材を芸術作品へと昇華させたラリックの代表的な作品であると考えています。装飾版に施されたクジャクの尾羽にかけての細部の優美さ、そしてガラスの造形そのものが効果的に統合されていて、ラリックの作品の中でも最も壮観なものとして位置づけられると思います。技術的そして美的な側面からも最高域に達した比類ない作品として当館が収蔵すべきものであると考えております。また、こちらは朝香宮邸の竣工時の写真において、允子妃の居間にモチーフの異なる同型のランプが設置されていた記録があります。そういったことから今後、建物公開展等のさらなる充実を図る上で本作品の展示活用が期待できるとして、今回、収集候補としております。

こちらの作品に関しての取引事例は右のとおりとなります。

また、他館の収蔵状況としましては、国内には今調べた限りでは見当たらず、海外の美術館での収蔵があるという状況になっております。

以上が購入5点の作品になります。

続きまして、寄贈の作品1点になります。こちら朝香宮邸の竣工写真なんですけれども、当館は今までもこちらの写真一式については収蔵しておりまして、今回その同類のものとなります。本作は松井写真館が撮影した朝香宮邸竣工当時の写真です。当時のお部屋の様子が写されております。

本作を収集候補とする理由としましては、1933年の朝香宮邸竣工当時の建物を撮影した貴重な写真のため、建物公開展での展示や研究資料としての活用について大いに活用が見込まれるということで、今回、収集候補としております。

国内美術館で購入の取引事例があります。

また、他館の収蔵状況としては、宮内公文書館でも同様のものを収蔵しております。

最後に、寄託作品1点になります。こちらは「南薫綽約」という郷原古統という作家による日

本画の作品になります。衝立がついているものになっていて、まず作家の説明からさせていただきます。郷原古統は1887年に長野県に生まれました。中学卒業後に上京して美術学校への受験に備えて勉学に励みます。1907年に東京美術学校の日本画科へ入学しますが、同年、図画師範科という教職員の養職課程に転科します。卒業後は日本国内の学校で働くのですが、いろいろな変遷を経て台湾に渡ることになります。1917年に台湾の台中中学校に赴任し、その2年後、台湾全島で行われた公募展で郷原古統という画号でその展覧会の発起人となります。1921年に台北の女子高等普通学校に奉職に出たところ、当時の裕仁皇太子が同校を訪れた際に作品2点を制作し献上することになります。そういった流れの中で1927年に開催した第一回台湾美術展覧会東洋画部の審査員として、こちらの「南薫綽約」を出品します。郷原古統は、日本統治下の台湾において、台湾人学校の教員でありながらも画家として活躍して台湾の美術教育の発展のために重要な役割を果たした作家と言えます。

作品説明のほうに移ります。右側の写真を御覧いただきながらと思いますが、日本統治下の台湾で開催された第一回台湾美術展覧会に出品されたこちらの作品は、三幅一対の花鳥画です。左の面からモクゲンジとタイワンアオカササギが描かれていて、真ん中にホウオウボクとハトの作品、そしてキョウチクトウとカササギが右側に描かれています。この作品は台湾の南国の情緒を表現しているとされています。彩色の組合せは黄色いモクゲンジ、赤いホウオウボク、そして白いキョウチクトウというふうな組合せと言えます。この表現というのは時間の流れも表しています。モクゲンジの描かれた面が日没後、ホウオウボクの描かれた面が真昼どき、そしてキョウチクトウの描かれた面が午前中の様子を演出しています。台展の開催中に訪れた朝香宮鳩彦王が本作を買い上げて自邸へ配置する際に、この茶色い外側のつい立てが取り付けられたと考えられています。

こちらの作品を収集候補とする理由としましては、本作は1927年に開催された台展に出品された際に朝香宮鳩彦王がお買上げしたもので、旧朝香宮邸の旧蔵資料とされています。1955年から1974年の白金迎賓館時代まで、賓客をもてなす際や協定の調印式の際にもこちらが用いられて、朝香宮邸の歴史的背景を物語る大変重要な作品として考えています。また、日本統治下の台湾在住の日本人画家兼教員であった郷原古統という作家は、後に多くの台湾画家に影響を与えました。台湾における美術教育の発展に寄与した人物として現在評価がされています。本作は日本画という手法で台湾の代表的な動植物を描いて、綿密な細部表現と華麗な色彩表現という点から装飾性に富んだ花鳥画として芸術的価値が高いと判断しております。今後、建物公開展のさらなる充実を図る上で本作品の展示活用が期待できるとして、今回、収集候補としております。

郷原古統の作品の取引事例としては右のとおりとなります。

また、他館の収蔵状況としましては右のとおりとなります。

以上で作品の解説を終了します。

宮田文化施設担当課長：庭園美術館からの御説明は以上でございます。

何か御質問などはございますでしょうか。

天野委員：単純に教えていただきたいということでご質問させていただくのですが、こ

の4以外のアール・デコ博に用いられなかった1から3というのは、ご説明によれば最初に作った後に同型のものを販売用に制作したということなんですか。

牟田副館長：さようでございます。

天野委員：なるほど、それで販売用に制作した時期は、でも、1925年だということなんですか。

牟田副館長：1925年以降ということになるかと思います。ただ、博覧会に合わせて原型が制作されておりまして、オリジナルの制作年自体は1924年になるかと思います。

天野委員：フォルムが、つまり原型が作られたわけですね。そこからそんなに遅くならないうちに実際にガラスになったということで理解してよろしいんですか。

牟田副館長：はい、私どももそのように認識しております。

天野委員：あと、この種のものの来歴というのはあまり分からないんですか。

牟田副館長：実際に作品を御覧いただきながら御説明させていただきたいと思います。

天野委員：はい、分かりました。

宮田文化施設担当課長：そのほかはよろしいですか。

それでは、これから作品の実見をしていただきたいと思います。御案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。御準備をお願いします。

（ 委員離席 ）

（ 作品検分 ）

（ 委員着席 ）

宮田文化施設担当課長：作品を御覧になって特に御質問等はよろしいでしょうか。大丈夫ですか。

それでは、評価方法の説明をさせていただきます。

評価表に金額を記載していただきまして署名をいただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの平均値を評価額といたします。金額は税込みのものを御記載をお願いいたします。

評価方法について何か御質問等はよろしいでしょうか。

それでは、お手元のボールペンのほうで御記入をお願いいたします。

御記入がお済みになりましたら事務局が確認をさせていただきますので、お声がけいただければと思います。確認が終わりましたら御退席いただいて結構でございます。

冒頭に御説明させていただきましたが、お配りした資料一式は回収いたしますので、机の上に置いたままにしていいただければと存じます。

本日はお忙しいところありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。

（ 委員評価表記入・回収 ）

午後3時21分閉会

以上